
夏の獲物

真咲静夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の獲物

【Zコード】

Z0614Q

【作者名】

真咲 静夜

【あらすじ】

夏の字がつく一人が好きなのはお祭り男…

「 なあ」

「 あ?」

高校も入って1年も経てば、それなりの友人もできる。
話しかけたのは友人の一人であり、片想いの相手。

同じクラス、出席番号は前後、ぱちりとした日に意外に長いまつ毛、
天パでたまに妖怪アンテナが立つてしまひ危険な髪（とヤツは言つ
ている）の持ち主。

仁科祭、その名の通りのお祭り男…俺をバイだと自覚させた男だつ
た。

「ザクつてやつぱかつけーわ」

「ザクよじドームだろ」

最近モビルスーツの出でぐるアニメにハマつた祭から出でぐるのは
その話題ばかり

「やつぱお前こーわーー!も出しが多い奴、好きだぜ」

「そつこつお前は雑学が少なすぎる。中学で何を習つてきたんだ。
中学の勉強は雑学を知るための基礎だぞ?」

「やつぱお前は楽しこことだけをしてきたんだ…でも
お前が教えてくれるな!俺は樂しこことだけをしてきたんだ…でも

「ひいがなで喋るなよ」

ああ、俺もお前と話すの楽しいよ。…お前に彼女がいなけりや、もつと楽しいのに…

「おーなつだー。」

そうやって好きだと云いつつも、やつぱり異性がいいんだな…
彼女を見かけて追い掛けた祭を一瞬目で追い、読みかけだった手元の小説に視線を戻した。

* * *

「琉夏…」

「夏依^{なつい}」

棚橋夏依は祭の彼女で、俺の幼なじみ。

互いの兄弟以上に互いを知っている存在…もちろん俺が祭が好きなのも知っている。

俺の初めての女だつたりもある…

「祭に告白しないの?」

部屋で寛いでいたら、祭と帰ったはずの夏依が来た。

「しない……お前、祭の彼女だろ？」「

「今はね……だから、祭が何を見てるかも知つてゐつもじよ……」

何が言いたい

俺がベッドで寝転んでいる時の定位置である椅子に座つた夏依。夏枝の目が怖い……狙つてゐる目だ……何を狙つてゐる？

「間違いなく祭は琉夏が好きよ」

「ば……ばか言ひなよ……」

「でも私が居るから身動き取れないみたい……。バカなのよね。私が琉夏とずっと一緒に居たでしょ？だから、自分の視界にいた女だった私を好きだと思つちゃつたのよ……私も祭が好きだったから付き合つたけど……」

夏依の目が俺に刺さる。

知つていた夏依は祭が好きなんだ。
きちんと好きなんだと知つっていた。

「でもね、祭、最近気が付いたみたい。琉夏が好きって……私、祭を振るうと思つの……だからね、琉夏、祭に告白しなよ」

「夏依……」

「琉夏が祭と付き合つてくれたら、一鬼を得られるのよね

そうだった……お前はそういう奴だよな。

きつと祭以上に好きな奴ができるけど、祭を手放すのも惜しいんだ

な？

「私……ワガママだもの。好きな人とは誰一人として離れたくないの」

「夏依、さっさと祭を振つてくれ……」

「ふふ……琉夏も祭も……倉敷先生も……私のね」

お前……本命はうちの担任か！

「話は終わり……またね」

あっさりと帰つた夏依は女王だ……そして、俺も夏依から離れる」と
もない。

＊＊＊

「祭」

祭を昨日振つたと夏依からメールが届いた。

「どうした？ 琉夏」

誰も居なくなつた教室で祭と二人、
一緒に帰ろつと伝えておいて、誰も居なくなるまで待つ。
そして俺は立ち上がり、祭に近寄り……唇を重ねた。
チユツとなるリップノイズ……

「なあ、お前が好きなのは本当に夏依か？」

「琉夏？」

「それとも俺か？」

真っ赤になる祭の顔でわかる。

「もう一度キスしても？」

微かに頷く祭が好きでしかたない。
絡む舌が心地いい。

「琉夏が好きだ」

「…知ってる」

祭…好きだよ…

(後書き)

夏依の方はそのままにSに出てくるかも

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0614q/>

夏の獲物

2011年1月16日05時57分発行